

# Weekly Bulletin 2019-2020



RI会長  
マーク・ダニエル・マローニー



ロータリーは  
世界をつなぐ

静岡東ロータリークラブ

会長／新聞桂子 幹事／森下登志美

事務局／静岡市葵区追手町2-12 静岡安藤ハザマビル5F TEL054-254-5611

例会場／ホテルアソシア静岡 例会日／毎週 未曜日 12:30～13:30

<http://www.shizuoka-east-rc.jp>



会長  
新聞桂子

## 第 2910 回例会

令和元年 7月18日 天候 曇り

《司 会》 森下 登志美 君

《合 唱》 「それでこそロータリー」

《BGM》 「アランフェス協奏曲」

《ゲスト》 染織家 YUTORI ART&CRAFT  
代表 稲垣 有里 様

《ビジター》 なし

《本日のお祝い》  
お誕生日 7月20日 鶴見 展哉 君  
結婚記念日 該当者なし

《ソングリーダー》 古橋 剛俊 君

皆さんこんにちは。先週の12日の金曜日に後期高齢者・認知症の試験を受けて参りました。落ちたらこの東ロータリーを退会しようかなあというふうに考えていたのですが、86点がとれて合格となったので、しばらくは在籍します。またお付き合いを宜しくお願いします。ちなみにその日は10人受けたのですが、一人だけ試験の後に別室に呼ばれていましたので、あの人は駄目だったのだなあと思います。



《会長挨拶要旨》 新聞 桂子 会長

先週「はやぶさ2」が小惑星リュウグウに2度目のタッチダウンに成功した。というニュースがありました。「はやぶさ」は「我々はどこから来たのか」の答えを見つける事をめざしています。地球と、その上に生きる生命と、その源であるとされる海、これらの物質が太陽系が誕生したとき密接な結びつきをし地球が誕生したと考えられています。

小惑星というのは惑星が誕生した頃の状態を比較的



良くとどめている化石のような天体で、ここからサンプルを持ち帰ることができると「惑星を作るもとなった材料がどんなものか」「惑星が誕生するころの太陽系星雲内の様子はどうだったのか」についての手がかりが得られ、地球上でサンプルの分析が行えるので科学的意義が大きいそうです。

通信機能の故障により行方不明となり奇跡の生還といわれた「はやぶさ」は小惑星イトカワを目指し2003年に打ち上げられ2010年に地球に帰還しました。

「はやぶさ2」は2014年に打ち上げられ小惑星リュウグウを目指しました。リュウグウという惑星はより太陽系初期の情報を多く持っていると言われています。2019年2月に最初の、そして先週2回目のタッチダウンに成功し、クレーターを作った採取、小惑星の地下の状態を探り内部のより地球に近い複数の化学物質を含んだサンプルを持ち帰ることができると期待され、それにより小惑星の形成過程についても理解が深まるそうです。

直径900メートルの小惑星リュウグウに到着し、そこからサンプルを採取するという作業は、日本からブラジルにある直径6センチの目標に命中させるほどの精度が必要だそうです、これを可能にした技術の一つにイオンエンジンの開発があり、静岡出身の若い科学者が少なからずかかわっているそうで、遠い宇宙の話とはいえ何か身近に感じています。

2019年の冬にはリュウグウを出発し2020年の冬には地球に帰還する予定だそうです。無事帰還を楽しみに待っています。

《来賓卓話》

「ルワンダ パナナファイバープロジェクト  
女性の就労支援のための  
機織り技術支援に参加して」

染織家 YUTORI ART&CRAFT 代表 稲垣 有里 様氏  
染織家の稲垣有里と申します。私の仕事は糸を染めて機織機で織る仕事をしております。元々は着物を織る仕事をしていたのですが、その後静岡市クリエイタ



一支援センターという施設で、地元の廃校になった小学校をアトリエとしてお借りしていました。現在は紺屋町の地下街の一番奥でユトリアート&クラフトという教室をやっております。自分が行くとしたらこんなのがいいなあと言うのをできるだけ取り入れた教室で

す。好きな時間に来て、材料費は使った分だけ量り売りで明朗会計、カリキュラムは特にないので好きなことからやれる、といった感じです。染め、織り、紡ぎ、フェルトなど手芸も教えています。最近はこども手芸部と称した編み物や縫い物なども教えており、老若男女問わず通ってくださっています。小さい子でも、自分の好きな糸を選んでランダムに織り込み、仕上げのバックやポーチにするところは私がお手伝いをしています。もし手芸、お絵かき好きなお子さんがいたらぜひご紹介ください。

今日は「バナナファイバープロジェクト」についてお話ししたいと思います。2015年9月、1カ月間ルワンダで機織りを教えてまいりました。まずルワンダと言う国ですが、首都キガリは人口密度がアフリカで一番高く、人口は1221万人、ルワンダという名前は「千の丘」という意味だそうです。満天の星空が美しかったです。

そもそも、なぜルワンダに行くことになったかという、もともとは当時ルワンダにお住まいの三戸ゆりさんと多摩美術大学が「バナナファイバープロジェクト」と言うプロジェクトを立ち上げ、日本からの補助金でルワンダの女性の就労支援のため、機織り機と紡ぎ車を多数現地に送り、ルワンダ人を日本に招致して指導を行ったと聞いております。このプロジェクトが終わって6年、継続はなかなか難しく、道具はバラバラで機が織れる人は1人もいませんでした。そこで三戸さんがクラウドファンディングでお金を集め、道具の使い方を学んでもらい、バナナの繊維の商品化をするという企画を立ち上げました。私に与えられたのは18日間と言う短い時間で、卓上の機織り機と紡ぎ車の使い方をマスターさせ、商品化まですると言うかなりむちゃぶりの企画でしたが本当に良い経験となり、チャンスを提供いただいたことに感謝しています。

バナナは3種類あり、どのバナナの繊維も糸はとれるのですが、あまり良い繊維とは言えないのが現状でした。バナナ繊維は素朴な風合いで乾くのが早く、何と言っても軽いのが特徴です。今回のプロジェクトではカゴやバックなどを編む事ができる組合から2人ずつ、3組合から全部で6人、参加していただきました。道具の確認をしたらほんとにバラバラで、部品の1部がないものがたくさんあって、10台あるうちの7台を生かして3台は部品を取るのに使うと言うような感じで組み立てていきました。本当にみんな説明を一生懸命聞いてくれるのでびっくりしました。ただみんなメモってというの取らないんですね。実技は体験して覚えるんだなと感心しました。難しかったのは、サイズの問題です。同じサイズに織れないと商品価値がないということを経験して何度か何度も伝えました。やり始

めてわかったのですが、算数ができませんでした。でも、たて糸の数を数えながらやってくれないといけなないので、日本式の「正の字」の五進法を参考に四角に斜め線を入れることで解決しました。研修12日目に講習会をしました。1人ずつ作品を三戸さんに見ていただきました。全体的に本当にみんなよくできて、色のセンスもよかったです。ルワンダ人の女性はすごくおしゃれで原色に近いきれいな色がよく似合います。洋服は私たちがよく買う吊るしの服は輸入品なのでほとんど売ってなくて、生地を買って作るそうです。

草木染めを教えるのが好きだったので、食事の玉ねぎの皮やユーカリの葉っぱを染めてみました。しかし、ルワンダで草木染めは向かないと言うのが結論でした。なぜならば水が1番貴重だからです。

たて糸に使える位丈夫な糸を作ろうと思ったのもっといろいろ試してみないとダメでした。

しかも、もしつむげたところで地元のお土産物として売るには良いレベルでもアジアの製品には勝てないなという思いが続いていました。研修18日までに全員が5回以上、機をかけました。5回通りぐらいうると頭に入ってくるものです。ただ、やはり1番の難関は経糸を作るところでした。計算ができない分、もう整経台はつくるしかないと思い、家具の工房が立ち並ぶ地区に行って必要な板をオーダーしてきました。柄や色は本人たちが自由にデザインしてくれます。研修期間が実質18日間と言う本当に短い中でみんなよくここまで頑張ってくれたなと感心しています。私がいなくてももう4年近く経つ今でもちゃんと継続して織れていると言うのは本当に感動です。

最後になりますが、相手を思いやる気持ちというのは万国共通で、それが一番シンプルで大切なコミュニケーションなんだと感じました。フェアトレードについて改めて考えさせられました。ご静聴有り難うございました。

### 《スマイル報告》

青島 隆晴 君 誕生日のお祝いありがとうございました。今年で54歳となりますが、四捨五入してもまだアラフィフと言えます！これからも気持ち・身体とも若さを保ち、健康に留意して仕事とプライベートを楽しく充実して過ごしていけるようスマイルします。

宇田川 享 君 7月11日にアスティ静岡がリニューアルオープンしました。皆様ぜひお立ち寄り下さいのスマイルです。

### 《出席報告》

	会員数	出席	欠席	MU	完全欠席	確定出席率
7/18	48(47)	32	15	-	-	-
7/11	48(47)	34	13	-	-	-
7/4	48(47)	39	8	6	2	95.74%

(会報作成 菊池 茂夫)